

Management Information

連載 会計実務概論「病医院会計のすべて」

第2部 病院会計制度概論

第9章 損益計算書の内容

収益および費用

9-2 収益および費用の認識・測定の基準

9-2-1 費用収益の計上基準

(1) 現金主義

現金主義とは、現金による支払いあるいは現金による受取りという事実にもとづいて、収益および費用を認識・測定する基準である。すなわち、現金の収入があった場合に収益を計上し、現金の支出があった場合に費用を計上するというものである。

現金主義は、いくつかの長所を持つ。あくまでも現金の支払いあるいは受取りという客観的な事実にもとづいているので、損益計算に個人的な判断や恣意性というものが介入する余地がない。これは、会計の客観性の確保、あるいは比較可能性・検証可能性の確保という観点から、大きな利点であると言えよう。また、収益に関して、現金の受取りという事実のみで収益を計上することから、未実現の利益が排除され、会計の保守性が保たれるという利点もあげられる。

しかしながら、現金主義は、現在の経済環境においては多くの短所を露呈してしまう。そもそも、現在の経済取引は、現金による取引もおこなわれるが、それ以外の手段による取引もおこなわれる。病院の経営では、たとえば、医薬品や診療材料の購入について考えてみると、毎日のように多くの医薬品や診療材料を仕入れる場合、いちいち、毎回、現金によって支払いをするであろうか。それではあまりにも煩雑になってしまい、その他の業務に支障をきたすことも考えられよう。その場合には、しばしば信用取引として、後日まとめて支払いをする取引がおこなわれる。医薬品や診療材料は医業費用として計上されるが、もし現金主義で費用が計上されるのであれば、後日の支払いの前にその医薬品や診療材料を使用したとしても、支払いまでは費用として計上されないことになる。これでは、適切な損益計算を行えない。

< 続く >

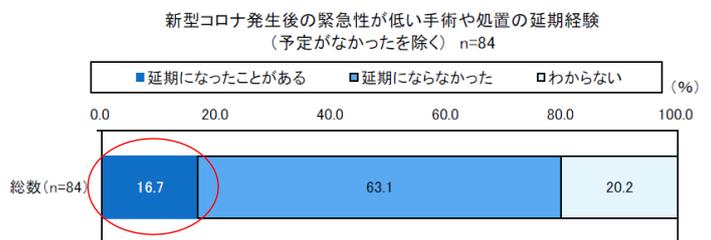
(井出健二郎著「病医院会計のすべて」日本医療企画より)

日本の医療に対する意識調査

日医総研が「日本の医療に対する意識調査」(中間報告)を公表しました。コロナによる診療への影響やかかりつけ医を持っている割合などがよくわかります。

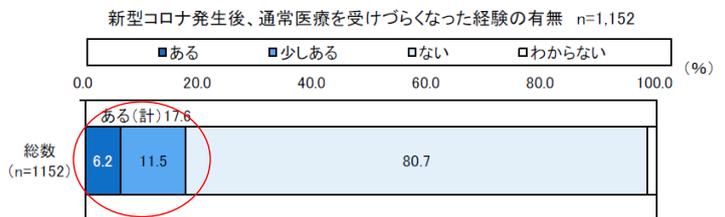
□手術や処置の延期について

図5 手術や処置の延期(予定がなかった人を除く)



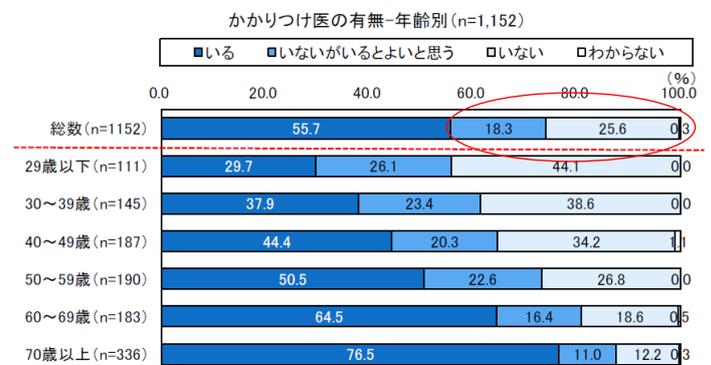
□通常医療を受けづらくなった経験の有無(外来)

図7 通常医療の受診(全体)



□かかりつけ医について

図15 かかりつけ医の有無-年齢別



図内赤丸は筆者加筆